

2020年1～2月掲載分

習志野 大慈弥 爽子

初凧の島へ二丁艦すべりだす
香ぐはしき土より剥がし取る若菜
福を呼ぶおかめひょっとこ春隣
運針は苦手なれども針祀る
思ひ切り泣き春愁を振り払ふ

八王子 石井 蓉子

工賃と賞与をもらうクリスマス
一人居のゆず湯がくれしリラックス
ワンルームとて手抜きなく年用意
焼蕎麦屋に呼びかけられているのかも
予約日を違へず通院年暮る

町田 小森 まさひこ

猿曳の猿深々と頭下げ
武蔵総社の裏なる森の淑気かな
総社へと続く冬木の並木かな
虚子句碑の冬木を過ぎし日を浴びし
門松の竹平らにありし府中かな

松尾芭蕉

一露も こぼさぬ菊の 氷かな
百歳の 気色を庭の 落葉哉
二人見し 雪は今年も 降けるか
冬庭や 月もいとなる むしの吟
冬牡丹 千鳥よ雪の ほととぎす

2020年3～4月掲載分

習志野 大慈弥 爽子

摘みすぎし土筆に指をてこずらす
決断をして春愁をぬぎすてる
涅槃西風礎石を残す大伽藍
甘き香を重く溶かしてリラの雨
川風に花の満ちくる音を聞く

八王子 石井 蓉子

待春の色そこここに通所道
友となるテレビを消して春の宵
決められし期日通院春の道
一つ先の駅まで行って春を知る
よちよちと前行く子供草萌ゆる

町田 小森 まさひこ

免状無き卒業果し部屋を出る
施設でふ卒業式のあたたかく
人口減の止まるニュースや四月馬鹿
春の日の影に寄り添う姿あり
連翹の色が地球を明るうす
連翹(れんぎょう)

与謝蕪村

春の海ひねもすのたりのたりかな
春の夜や宵あけぼのの其中に
春雨の中を流るる大河かな
古庭に鶯啼きぬ日もすから
春をしむ人や榎にかくれけり

2020年5～6月掲載分

2020年7～8月掲載分

2020年9～10月掲載分

2020年11～12月掲載分